



桂陽高校図書室キャラクター  
「フワちゃん」

# ほんよも No. 004



## 本はつらい現実を忘れさせてくれます。

みなさんこんにちは。図書室担当の川口です。学校が再開してからもうすぐ1ヶ月になります。疲れてはいないでしょうか。

個人的なことで申し訳ないのですが、私は先週プライベートで少々ショックなことがあり、精神的に落ち込んでいました。

このようにメンタルがピンチになった時、私は努めて本を手取るようにしています。それも、現実から大いに離れた物語の本を選ぶことが多いです。

本の世界に入り込んで読んでいる最中は、現実世界の悩みから逃れることができます。ヒントとなる言葉が見つかることもあります。読み終えた時は、悩みが軽くなっているのを感じます。

**本は、つらい現実を一時忘れさせてくれます。** 映画やテレビよりも触れている時間が長いので、より現実を忘れさせてくれる効果があるような気がします。

ちなみに今回私が選んだ本は、伊坂幸太郎さんの『マリアビートル』という小説です。「世界一受けたい授業」でフワちゃんが紹介していました。予測できない面白さで、悩みも吹っ飛びました。この本、なぜか図書室には2冊あります。



何かつらいこと、落ち込むようなことがあった時にはどうぞ図書室へ。現実を忘れさせてくれる本がたくさんあります。戸を開けて、いつでもみなさんをお待ちしています。

# ～愛したはずの夫は全くの別人だった～ 『ある男』 平野啓一郎

## 内容・あらすじ

ある男性と愛し合って結婚し、子どもにも恵まれ、幸せな生活を送っていた里枝。しかしある時、夫が事故で急死してしまいます。

悲しみにくれていた里枝は、疎遠になっていた夫の兄に連絡を取り、葬儀に来てもらいます。しかし、遺影を見た夫の兄は困惑しながら驚くべきことを言いました。

## 「これは弟じゃありません。全くの別人です。」

これをきっかけに、今まで一緒に過ごしていた夫の名前も過去も、全てでたらめだったことが発覚します。「夫は一体誰だったのか？」

里枝から相談を受けた弁護士の城戸は調査を始めます。調べるうちに、里枝の夫だった人物がなぜ過去を偽っていたのか、その理由が徐々にわかってきます。

城戸は、彼の波乱とも言える人生に引き込まれ、真相を里枝に伝えるのでした――。

## 川口先生の感想

これはとてもいい小説でした。ミステリーっぽい始まり方をしますが、これはまぎれもなく「愛」の物語です。ただの「恋愛」ではなく、「愛」の物語です。

「愛する人の過去が全くの偽りだった」という話は、ありそうで意外になかった気がします。

「愛する人の名前も過去も全くの偽物だったら、それでもその人を愛していただけるだろうか」というこの問いは、ものすごく重くて難しいと思いました。

自分だったらどうかなあ、と考えながら読みました。愛する人の名前も過去も全部引くくめて「その人」なわけですから……。

物語後半で、ある登場人物がこの問いへの答えを語るのですが、私はこの答えに「ううーん」と声に出してうなっていました。

そして、「自分はこれが今までできていなかったかも……」と、過去を振り返って反省しました。

たぶんここは物語の核心部分なので、ぜひ読んでみて確かめてほしいです。

そして色々なことがあった後、物語は里枝一家の描写に戻ります。そのラストシーンは胸がいつぱいになって、涙がじわーっとこぼれそうになりました。

